

第 20 回 長野県移動性・安全性向上検討委員会 議事録（案）

1. 開催概要

□開催日時：令和 3 年 8 月 26 日（木）15：00～

□開催場所：国土交通省長野国道事務所会議室

□議事次第

1 委員紹介

2 開催あいさつ

3 議事

1. 長野県における交通渋滞対策について

（1）これまでの検討の経緯

（2）今回会議の論点

（4）主要渋滞箇所の対策実施

（5）ピンポイント渋滞対策について

（6）TDM について

2. 長野県における交通事故対策について

（1）これまでの取り組み経緯

（2）長野県内の幹線道路交通事故対策

（3）生活道路等への取り組み

（4）通学路への取り組み

3. その他

2. 質疑応答：交通渋滞対策について

■ =説明・意見・質問・要望

➤ =回答

【CO2 バンク推進機構】

- 渋滞対策が順調に進んでおり望ましい。TDM を含め、渋滞対策を進めることで地球温暖化防止、ゼロカーボン等に繋がるため引き続きよろしく願いしたい。
- 新たな解除の指標として、遅れ時間を各交差点の通過時間をサイクル長で評価しているが、複数の信号が連続する区間についてはどのように評価するのか。

【事務局】

- 主要渋滞箇所以外の信号の影響を除くために、信号交差点間で評価区間を設定し、評価を実施している。なお、信号直近の DRM 区間内に信号が存在する箇所もあるため、そのような区間については現地調査結果も含め判断していきたい。

【CO2 バンク推進機構】

- 信号が連続する区間については、一定区間を走行する中で、信号待ちが何度も発生する場合、混雑していると感じるのではないかと。信号が連続する区間の評価では、トータルの時間等も含めて評価していただけると良いのではないかと。

【委員長】

- 信号が連続する箇所を区間では、片側の信号がスムーズに進む場合には、反対側は逆に信号に多く止まることが考えられる。評価する場合には、交通量も加味する必要があるのではないかと。どこまで考慮するかは難しいが、交通量も加味した総遅れ時間などで評価することが望ましいと考える。
- また、坂城インター交差点では、坂城インターを流出した車両が国道 18 号まで行かずに手前の交差点で左折しており、坂城インター交差点の負荷が軽減しているという状況もある。

【事務局】

- 今回の解除候補箇所については、現地の状況を再度確認する。また、ご指摘のとおり信号が連続する区間については、利用者の実感と乖離する可能性もあるため、交差点単位ではなく区間で評価するなど評価手法について今後も検討を進めていくこととしたい。

【委員長】

- 松本年の TDM について、現在上高地線が落橋によりバスで代替輸送しているところであり、松本市内の渋滞が増加しているタイミングと考えられる。松本市の西側に大きな事業所も存在するため、TDM の実施・評価についてはその影響を注意する必要がある。

【事務局】

- 承知した。松本市の交通状況を踏まえて、TDM の実施・評価を行っていく。

【委員長】

- コロナ終息後に現在の反動として観光交通等が多く発生することが想定されるが、その対策について、何か考えている対策はあるか。

【事務局】

- TDM では、まずは平日通勤時の渋滞の緩和を目指し、時差出勤等の対策を行う予定である。観光時の対策については、今後対策を考えていきたいと考えている。

【委員長】

- 今回松本市の企業に対してアンケートを行っているが、TDM を実際に実施する従業員に対してもアンケートを行うのが望ましいと考える。
- TDM の施策の中では公共交通への転換等も考えていくのか。

【事務局】

- 従業員へのアンケートや公共交通転換等も含め、今後検討を進めていきたい。

【松本市】

- 市内の企業に協力してもらいながら通勤交通の実態の把握や TDM を実施していく予定である。長野国道事務所にも協力してもらいながら、まずは朝の通勤時間の渋滞緩和に取り組んでいきたいと考えている。

【委員長】

- 事務局提案の御影新田池の前交差点の解除については承認とする。
- 今回意見をいただいた箇所については事務局で検討いただき、その結果について引き続き議論することとする。

3. 質疑応答：交通事故対策について

- =説明・意見・質問・要望
- =回答

【CO2 バンク推進機構】

- コロナ禍の影響により観光交通等が減少している中、事故リスクも減少していることがあるのではないか。対策効果が得られた箇所を対策完了とすることは是非進めて頂きたいが、コロナ禍の事故への影響が見えない中、そのようなデータで評価していることを示しておく必要があるのでは。

【事務局】

- 現時点では令和元年までの事故データが最新であり、コロナ禍以前の事故データで対策効果の評価を行っている。
- 今後、コロナ禍の事故データが蓄積されることから、どのような傾向であるか分析し、効果評価方法を見直す必要性があるか検討する。

4. 会議状況写真

